

SHUZO AZUCHI GULLIVER

シ
ユ
ウ
ゾ
ウ
ア
ツ
チ
ガ
リ
バ
ー
作
品
を
語
る



©SAGYO, Tokyo

会場

BankART Station

(横浜市西区みなとみらい5-1 新高島駅 B1F)

2021年

11月5日 [金] ゲスト: **村田 真** [美術ジャーナリスト]

11月26日 [金] ゲスト: **保坂健二郎** [滋賀県立美術館ディレクター]

12月24日 [金] ゲスト: **福住 廉** [美術評論家]

2022年

1月28日 [金] ゲスト: **三輪健仁** [東京国立近代美術館 主任研究員]

2月25日 [金] ゲスト: **長谷川 新** [インディペンデントキュレーター]

3月18日 [金] ゲスト: **宇佐見康二** [東京大学先端科学技術研究センター准教授]

6月3日 [金] ゲスト: **山本淳夫** [横尾忠則現代美術館 館長補佐兼学芸課長]

6月24日 [金] ゲスト: **西川美穂子** [東京都現代美術館 学芸員]

Talk about works
while preparing the exhibition

主催: BankART 1929 協力: SAGYO, Tokyo

SHUZO AZUCHI GULLIVER

BankART1929では、シュウゾウ・アヅチ・ガリバーの展覧会、「消息の将来（仮題）」を、2022年10月に開催します。展覧会で核となる約12点の作品を作家が語るとともに各回ゲストを招いて作家や作品その活動を紹介します。講座を開催します。

第1回

2021年
11月5日 [金]
村田 真



むらた・まこと|美術ジャーナリスト、画家。東京造形大学、慶応義塾大学、実践女子大学非常勤講師、BankARTスクール校長も務める。朝日新聞、北海道新聞、ウェブマガジン「アートスケープ」などに執筆。主な著書に『アートのみかた』、編書に『いかに戦争は描かれたか』（どちらもBankART1929）など。

第2回

2021年
11月26日 [金]
保坂健二郎



ほさか・けんじろう|滋賀県立美術館ディレクター（館長）。1976年生まれ。慶応義塾大学大学院修士課程修了後、2000年より20年まで東京国立近代美術館に学芸員として勤務、2021年より現職。企画した主な展覧会に「声ノマ 全身詩人、吉増剛造展」（2016年）、「日本の家 1945年以降の建築とくらし」（2017年）など。ウラジオストク・ビエンナーレ2022など国外でも活動。

第3回

2021年
12月24日 [金]
福住 廉



ふくずみ・れん|美術評論家。「共同通信」で毎月展評を連載しているほか、著書に『今日の限界芸術』（BankART1929、2008年）ほか多数。

第4回

2022年
1月28日 [金]
三輪健仁



みわ・けんじ|東京国立近代美術館主任研究員。主な企画（共同キュレーション含む）に「ゴードン・マッタークラーク展」（2018年）、「Re: play 1972/2015—『映像表現 '72』展、再演」（2015年）、「14のタペ」（2012年）、「ビデオを待ちながら—映像、60年代から今日へ」（2009年）など（いずれも東京国立近代美術館）。

第5回

2022年
2月25日 [金]
長谷川 新



はせがわ・あらた|1988年生まれ。インディペンデントキュレーター。主な企画に「クロニクル、クロニクル!」（2016-17年）、「不純物と免疫」（2017-18年）、「STAYTUNE/DJ」（2019年）、「約束の凝集」（2020-21年）など。国立民族学博物館共同研究員、PARADISE AIR ゲストキュレーター、相談窓口「SNZ」など。

第6回

2022年
3月18日 [金]
宇佐見康二



うさみ・こうじ|1976年愛知県生まれ。光学実験で固体中に広がる未知なる量子世界を探索する物理学者。東京大学先端科学技術研究センター准教授。理学博士（東京工業大学）。2008年から2013年までコペンハーゲンのニールス・ボーア研究所に滞在。最近の興味は、磁性体、半導体、低次元物質中に励起する準粒子と光との相互作用。

第7回

2022年
6月3日 [金]
山本淳夫



やまもと・あつお|1966年京都市生まれ。1990年京都大学文学部哲学科美学美術史卒業。芦屋市立美術博物館（1990～2005年）、滋賀県立近代美術館（2005～2011年）を経て、2012年より横尾忠則現代美術館の学芸課長、2019年より館長補佐兼学芸課長を務める。

第8回

2022年
6月24日 [金]
西川美穂子



にしかわ・みほこ|東京都現代美術館学芸員。1976年生まれ。慶応義塾大学大学院美学美術史学科修了。2004年より現職。主な企画に『MOT アニュアル2008 解きほぐすとき』（2008年）、『譚囀 ふたたび虹のかなたに』（2012年）、『MOT アニュアル2012 風が吹けば桶屋が儲かる』（2012年）、「フルクサス・イン・ジャパン2014」（2014年）、「Viva Video! 久保田成子展」（共同企画、2021年）などがある。

時間 19:30-21:00

会場 BankART Station
(横浜市西区みなとみらい5-1 みなとみらい線「新高島駅」B1F)

料金 全8回参加 12,000円 (定員10名)
各回参加 2,000円/回 (定員15名)

お申し込み・お問い合わせ

E-mail: info@bankart1929.com

TEL: 045-663-2812

<http://www.bankart1929.com/>

※スケジュールに変更が出る場合もあります、HPでご確認ください。

新型コロナウイルス感染予防対策を実施して開催します。熱のある方はご遠慮ください。ご来場の際は、手洗い・手の消毒・マスク着用・検温等にご協力をお願いします。

シュウゾウ・アヅチ・ガリバーは1964年から制作を始め、その活動は半世紀を超え、1960年代後半の熱い文化、芸術の現場を生きた現存する作家の1人です。今までは海外での作品の展示の機会が多く、日本では名前をのみが一人歩きしているばかりで、その興味深い作品や活動の詳細はまだ少ししか知られていません。昨年から今年にかけて、ニューヨーク近代美術館 (MoMA) が彼の作品を展示公開しましたが、このことも国内において知る人はごく限られています。1960年代の文化、芸術活動の掘り起こしが世界的な規模で進んでいます。BankART1929でもこの作家の貴重な活動を日本で広く紹介するとともに、改めて世界の文化、芸術の地平に注ぎたいと思います。作家は現在も現役で盛んな制作活動をしており、新作も展示公開します。

Talk about works while preparing the exhibition